ONKYO

# A-9010

## インテグレーテッドアンプ

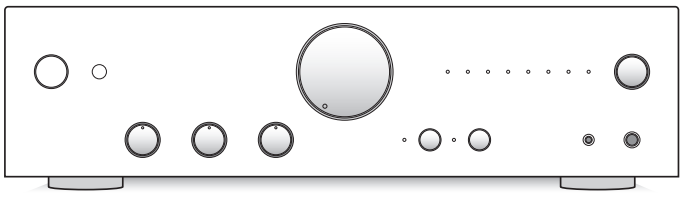
# 取扱説明書


接続する ..... 6

操作する ..... 10

困ったときは ..... 13

お買い上げ時の状態に戻すには ..... 13

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

Ja

# 安全上のご注意

**安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。**
電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

**「警告」と「注意」の見かた**：間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

**⚠警告** 誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

**⚠注意** 誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

**絵表示の見かた**：

感電注意

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

分解禁止

⃠ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

必ずする

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

## ⚠ 警告

電源プラグをコンセントから抜く

**故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く**
- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

分解禁止

**カバーははずさない、分解、改造しない**
火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

**接続、設置に関するご注意**

禁止

**通風孔をふさがない、放熱を妨げない**
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。
- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20 cm 以上、背面から 10 cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

**水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない**
本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。
- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

**電源コード・電源プラグに関するご注意**

禁止

**電源コードを傷つけない**
- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

必ずする

**電源プラグは定期的に掃除する**
電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

# ⚠ 警告

### 使用上のご注意

禁止

**本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない**
火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

禁止

**長時間音がひずんだ状態で使わない**
アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

接触禁止

**雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない**
感電の原因となります。

禁止

**長期間大きな音で使用しない**
本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

### 電池に関するご注意

禁止

**乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない**
電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き）に注意し、表示通りに入れる

接触禁止

**電池から漏れ出た液にはさわらない**
万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

# ⚠ 注意

### 接続、設置に関するご注意

禁止

**不安定な場所や振動する場所には設置しない**
強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

**本機の上に 10kg 以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない**
バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

注意

**配線コードに気をつける**
配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

### 電源コード・電源プラグに関するご注意

必ずする

**表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する**
本機を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

禁止

**電源コードを束ねた状態で使用しない**
発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

**電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない**
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。プラグを持って抜いてください。

電源プラグをコンセントから抜く

**電源を完全に遮断するには、電源プラグをコンセントから抜く**
電源プラグを抜き差ししやすい場所に本機を設置してください。

電源プラグをコンセントから抜く

**長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く**
絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

# ⚠ 注意

禁止

**電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む**
差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

ぬれ手禁止

**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない**
感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

**お手入れの際は電源プラグを抜く**
お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

**使用上のご注意**

高温注意

**通風孔の温度上昇に注意**
本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

禁止

**音量を上げすぎない**
- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

**移動時のご注意**

電源プラグをコンセントから抜く

**移動時は電源プラグや接続コードをはずす**
コードが傷つき火災や感電の原因になります。

禁止

**本機の上にものを乗せたまま移動しない**
本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

**機器内部の点検について**
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

**本機のお手入れについて**
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

**音のエチケット**
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

# はじめに

## 特長

**シンプルな回路構成で力強く素直な音質を実現**
A-9010 はプリメインアンプとしてのベーシックな性能「音質」を追求したモデルです。信頼性の高いディスクリートアンプを基本に、機能をシンプル化して回路をまとめ上げています。スピーカー端子を 1 系統のみに絞ることにより、信号経路上の切り換え部品を削減しています。またヘッドホンアンプ部をスピーカー駆動用のアンプとは独立した構成にしています。細部にまで音楽のエネルギーをダイレクトに伝える設計ポリシーを貫いています。

- 低 NFB ( ネガティブフィードバック )、ハイカレントローインピーダンスドライブ設計
- アルミ押し出しヒートシンク、ハイグレードスピーカーターミナルなどの部品を採用
- 信号経路を短縮化するダイレクト機能搭載

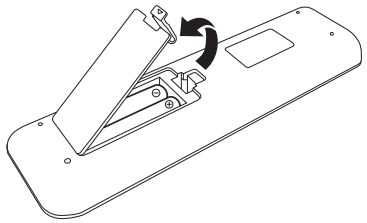
## 付属品

■ リモコン (RC-902S) × 1
■ リモコン用乾電池 ( 単 4 形、R03) × 2
■ 保証書 × 1

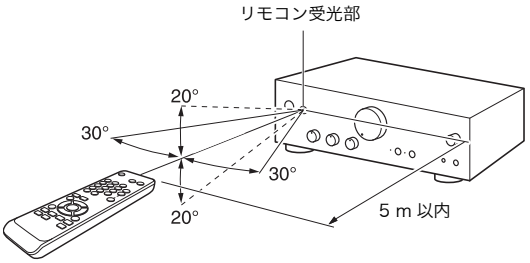
* カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

## リモコンの使い方

リモコン裏面のフタを外し、ケース内の ⊕ と ⊖ の表示に合わせて乾電池 ( 単 4 形、R03) 2 本を入れ、フタを閉めてください。



- リモコン操作の反応が悪くなったときは、2 本とも新しい電池と交換してください。
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておくと、腐食によりリモコンを傷めることがあります。

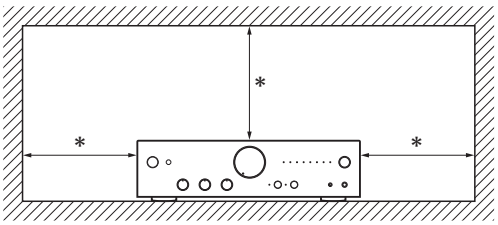



リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5 m 以内の距離で操作してください。

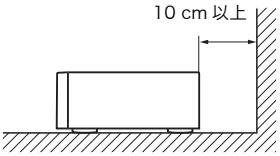
- 本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光が当たらないようにしてください。リモコンが正しく動作しないことがあります。
- 本体を色付きガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置している場合、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

## 設置について

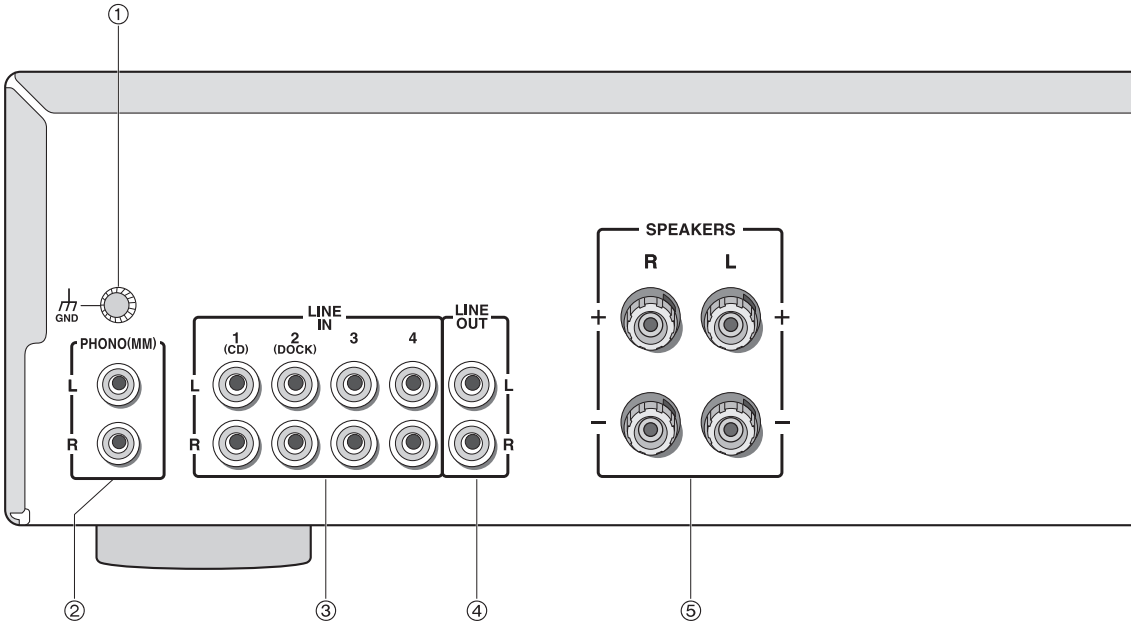
頑丈な棚やラックに水平に設置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。適切な通風を確保して、放熱を妨げないようにしてください。




* 20 cm 以上



# 接続する




① **GND 端子** : レコードプレーヤーのアース線を接続します。
② **PHONO (MM) 端子** : レコードプレーヤーと、オーディオ用ピンケーブルで接続します。
③ **LINE IN 1/2/3/4 端子** : CD プレーヤーなどの再生機器と、オーディオ用ピンケーブルで接続します。
④ **LINE OUT 端子** : カセットテープデッキなどの録音機器と、オーディオ用ピンケーブルで接続します。本機に接続した再生機器の音声を録音するときに使用します。
⑤ **SPEAKERS 端子** : スピーカーを接続します。

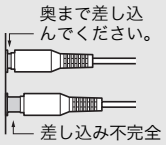
**接続に使用するケーブル（別売）**

オーディオ用ピンケーブル

スピーカーコード

RI ケーブル

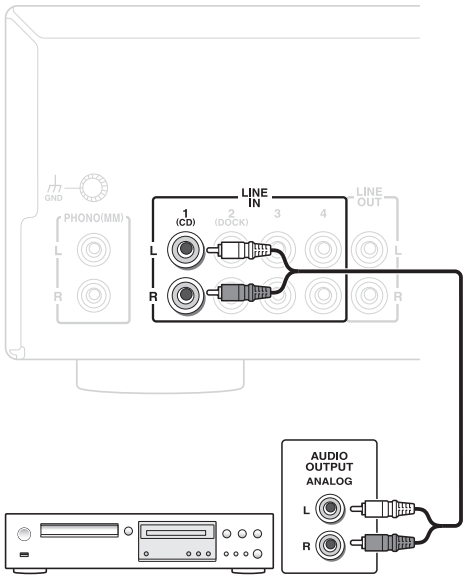
ケーブルのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全だと、雑音や動作不良の原因になります。



## CD プレーヤーなどを LINE 接続する

オーディオ用ピンケーブルを使用して、LINE IN 1/2/3/4 のいずれかの端子に接続します。

例：LINE IN 1 端子との接続

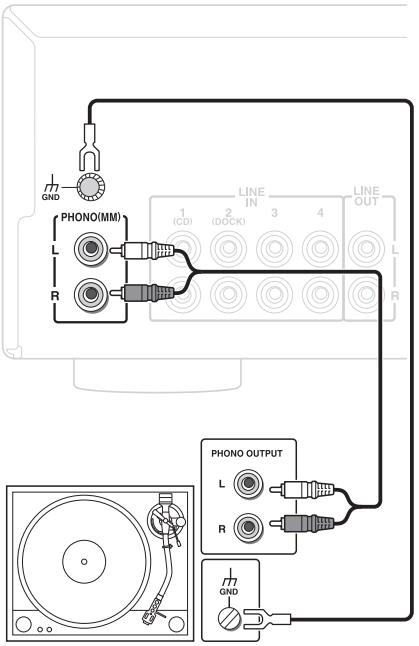



- 再生するときは、INPUT つまみを回して、接続した端子に対応した入力ソース LED を点灯させます。(例：LINE IN 1 端子に接続した場合は「LINE 1」)

**RI 端子付きオンキヨー機器との接続について**
RI 端子付きオンキヨー機器と接続すると、電源などの動作を連動させることができます。接続、設定方法については「RI 端子付きオンキヨー製品を接続する」(⇨ 8) をご覧ください。

## レコードプレーヤーを接続する

オーディオ用ピンケーブルを使用して、PHONO (MM) 端子に接続します。また、お使いのレコードプレーヤーに GND 端子がある場合は、本機の GND 端子とアース線で接続してください。




- 本機は MM カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、本機とレコードプレーヤーの間に市販の昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続してください。
- お使いのレコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合は、オーディオ用ピンケーブルを LINE IN 1/2/3/4 端子のいずれかに接続してください。

## RI 端子付きオンキヨー製品を接続する

RI 端子付きのオンキヨー製 CD プレーヤー、RI ドック、チューナー (＊) と RI ケーブルで接続すると、以下のような連動機能が働きます。

＊ MD プレーヤーなど他の機器では、連動機能は適切に働きません。また、製品によっては RI 接続をしても一部の機能が働かないことがあります。

**オートパワーオン** : 本機がスタンバイモードになっている状態で、RI 接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、その機器が入力ソースに選ばれます。

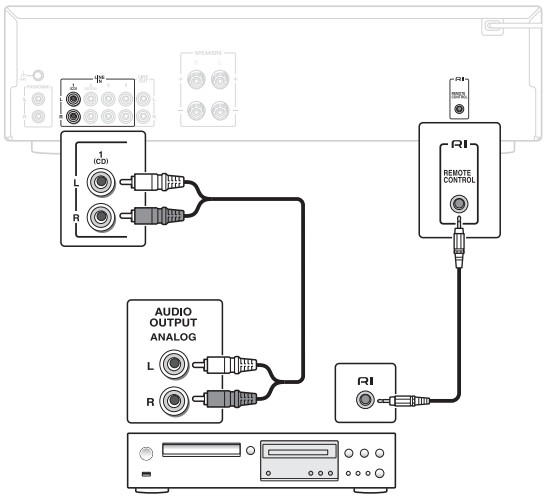
**ダイレクトチェンジ** : RI 接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

**システムオフ** : 本機の電源を切ると、RI 接続されている機器の電源が自動的にオフになります。

**リモコン操作** : 本機のリモコンを使って、RI に対応しているオンキヨー製品を操作できます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作します。
リモコンの操作については、「リモコンで操作する」(⇨ 12) をご覧ください。

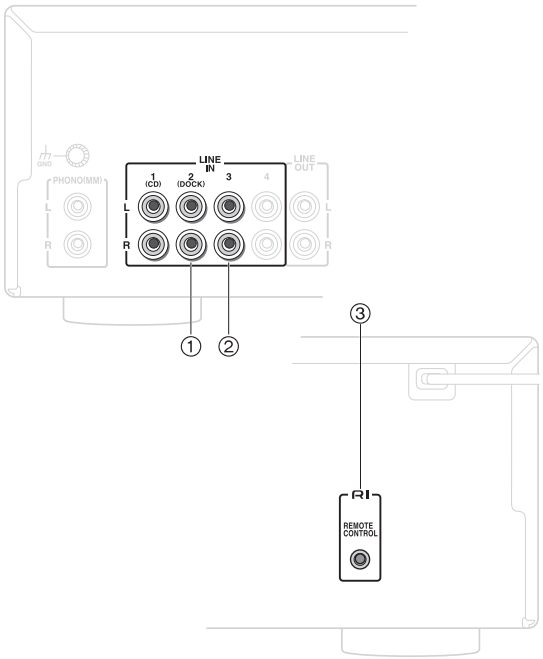
### 接続例 (CD プレーヤーとの LINE 接続 )

オンキヨー製 CD プレーヤーとの LINE 端子による接続例です。その他の接続については次項をご覧ください。




1. オーディオ用ピンケーブルを LINE IN 1 端子に接続します。
   • LINE IN 1 以外の端子に接続すると、RI の連動機能は正常に働きません。
2. RI ケーブルを RI REMOTE CONTROL 端子に接続します。
   • お使いの機器に RI 端子が 2 つある場合、どちらに接続しても動作は同じです。

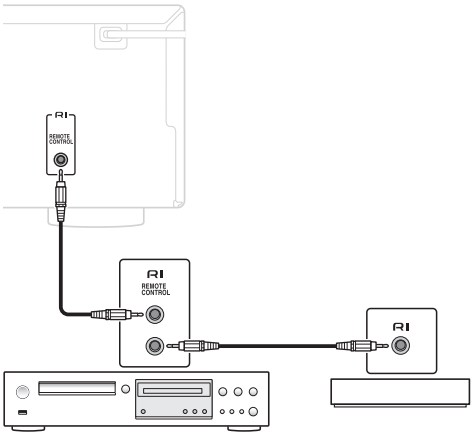
### ■ その他の接続方法について




**RI ドックとの LINE 接続** : オーディオ用ピンケーブルを ① LINE IN 2 端子に接続します。また、RI ケーブルを ③ RI REMOTE CONTROL 端子に接続します。

**チューナーとの LINE 接続** : オーディオ用ピンケーブルを ② LINE IN 3 端子に接続します。また、RI ケーブルを ③ RI REMOTE CONTROL 端子に接続します。

### ■ 2 台以上 RI 接続する場合は

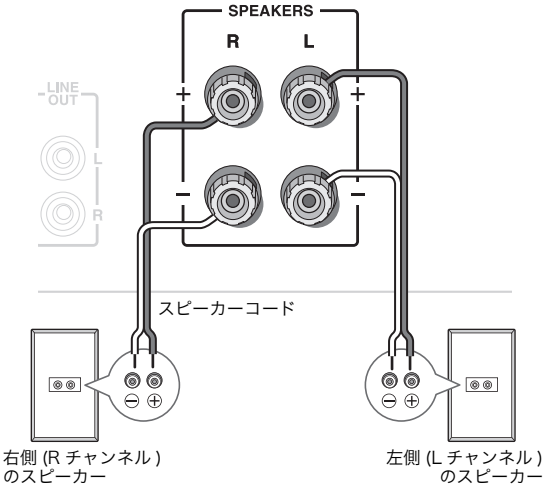


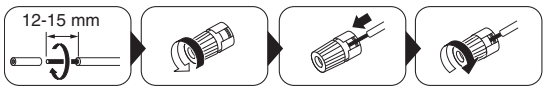

お使いの機器に RI 端子が 2 つある場合、1 つを本機と接続し、もう 1 つを別の機器と接続すると、どちらの機器も本機と連動させることができます。同様にして、さらに連動させる機器を増やすことも可能です。なお、機器の接続順に指定はありません。

## スピーカーを接続する

イラストを参照して、スピーカーコードで左右のスピーカーシステムを接続します。向かって右側に設置するスピーカーは本機の SPEAKERS 端子 (R) に、左側に設置するスピーカーは SPEAKERS 端子 (L) に接続してください。

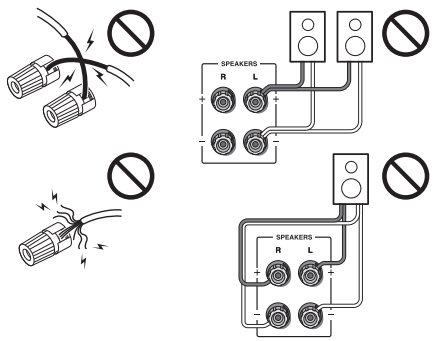
**重要** : スピーカーはインピーダンスが 4Ω ～ 16Ω のものを接続してください。4Ω 未満のスピーカーを接続すると、本機が故障することがあります。



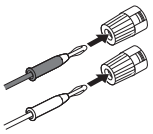




スピーカーコードは先端のビニールを取り、芯線をよじって端子に接続してください。その際に、本機の端子のプラス (+) 側とスピーカー端子のプラス (+) 側を、マイナス (–) 側はマイナス (–) 側とを、チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違って接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなります。

- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせたり、コードの芯線を本機の後面パネルと接触させると故障の原因になります。また 1 つのスピーカー端子に 2 本以上のコードを接続したり、1 台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。



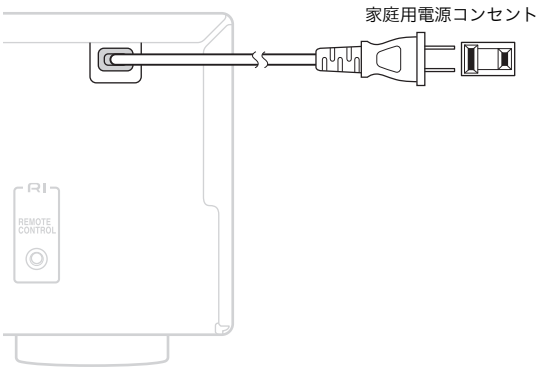

- バナナプラグをご使用の場合は、スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入して接続することはできません。必ずバナナプラグを取り付けて挿入してください。



## 電源コードを接続する

電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。

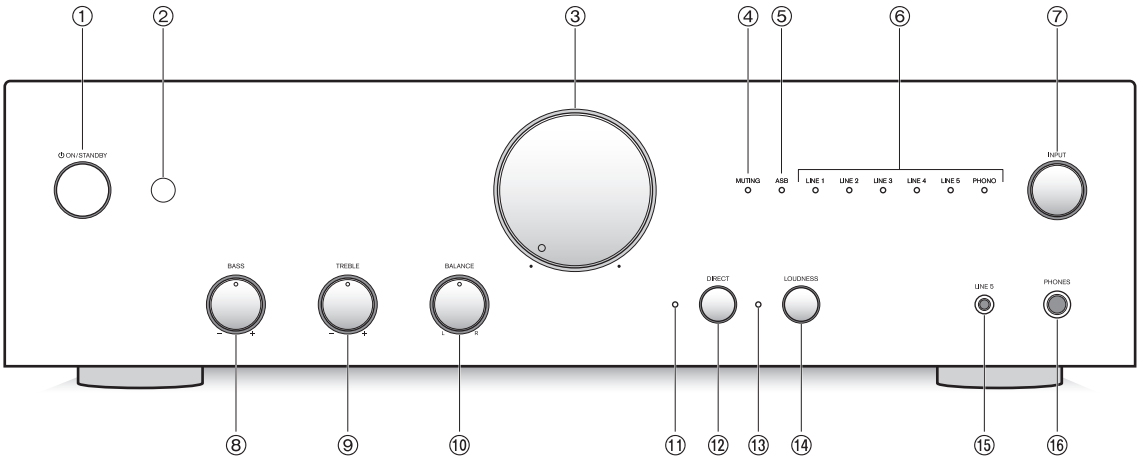
電源コードを家庭用電源コンセントに接続してください。




- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
- ノイズを抑えるため、信号ケーブルと電源コードは束ねず、お互いに離して配線してください。

電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

# 操作する




① **⏻ ON/STANDBY ボタン**
② **リモコン受光部**
③ **ボリュームつまみ**
④ **MUTING LED**
⑤ **ASB ( オートスタンバイ ) LED**
⑥ **入力ソース LED**
⑦ **INPUT つまみ**
⑧ **BASS つまみ**
⑨ **TREBLE つまみ**
⑩ **BALANCE つまみ**
⑪ **DIRECT LED**
⑫ **DIRECT ボタン**
⑬ **LOUDNESS LED**
⑭ **LOUDNESS ボタン**
⑮ **LINE 5 端子** : ポータブルオーディオプレーヤーなどの再生機器とステレオミニプラグ (ϕ 3.5 mm) で接続します。
⑯ **PHONES 端子**

## 電源を入れる

1. ① ⏻ ON/STANDBY ボタンを押します。
   ⑥ 入力ソース LED が点滅し、しばらくすると点灯に変わります。

**スタンバイ状態に戻すには** : ⏻ ON/STANDBY ボタンをもう一度押すと本機はスタンバイ状態になり、入力ソース LED が消灯します。
- 電源をスタンバイにすると、RI 接続されているオンキヨー製機器の電源も自動的にオフになります。

本機はオートスタンバイを設定することができます。
詳細については「オートスタンバイを設定する」
(⇨ 11) をご覧ください。

## 音量を調節する

1. ③ ボリュームつまみをゆっくり回して音量を調節します。

## 入力を切り換える

1. ⑦ INPUT つまみを回して、入力ソースを切り換えます。
   以下の入力から選択できます。
   LINE 1、LINE 2、LINE 3、LINE 4、LINE 5、PHONO
   選択した入力に対応した ⑥ 入力ソース LED が点灯します。

## 音質などを調整する

### ■ DIRECT

音質調整回路 (BASS、TREBLE) を通らず、音質に有利な最短経路で音声を出力します。

1. ⑫ DIRECT ボタンを押します。
   DIRECT 機能が有効になり、⑪ DIRECT LED が点灯します。
   - DIRECT 機能が有効なときは、BASS、TREBLE、LOUDNESS は無効になります。

**DIRECT 機能を解除するには** : DIRECT ボタンをもう一度押すと解除され、DIRECT LED が消灯します。

### ■ LOUDNESS

音量を小さくしたときに、低音と高音を強調します。

1. ⑭ LOUDNESS ボタンを押します。
   LOUDNESS 機能が有効になり、⑬ LOUDNESS LED が点灯します。
   - DIRECT 機能が有効なときは、LOUDNESS ボタンを押しても有効になりません。DIRECT ボタンを押して解除してから、LOUDNESS ボタンを押してください。
   - BASS、TREBLE を大きく上げているときは、LOUDNESS の効果が小さくなります。

**LOUDNESS 機能を解除するには** : LOUDNESS ボタンをもう一度押すと解除され、LOUDNESS LED が消灯します。また、DIRECT 機能を有効にした場合も、LOUDNESS 機能は解除されます。

### ■ BASS

低音を調整します。

1. ⑧ BASS つまみを回します。
   - DIRECT 機能が有効なときは、BASS の調整は無効になります。
   - LOUDNESS 機能が有効なときは、BASS の + 方向の調整範囲が小さくなります。

### ■ TREBLE

高音を調整します。

1. ⑨ TREBLE つまみを回します。
   - DIRECT 機能が有効なときは、TREBLE の調整は無効になります。
   - LOUDNESS 機能が有効なときは、TREBLE の + 方向の調整範囲が小さくなります。

### ■ BALANCE

左右のスピーカーから出力される音のバランスを調整します。

1. ⑩ BALANCE つまみを回します。

## ヘッドホンで聴く

標準プラグ (ϕ 6.3 mm) のステレオヘッドホンを⑯ PHONES 端子に接続します。本機の音量を下げてから接続してください。ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音声が出力されません。

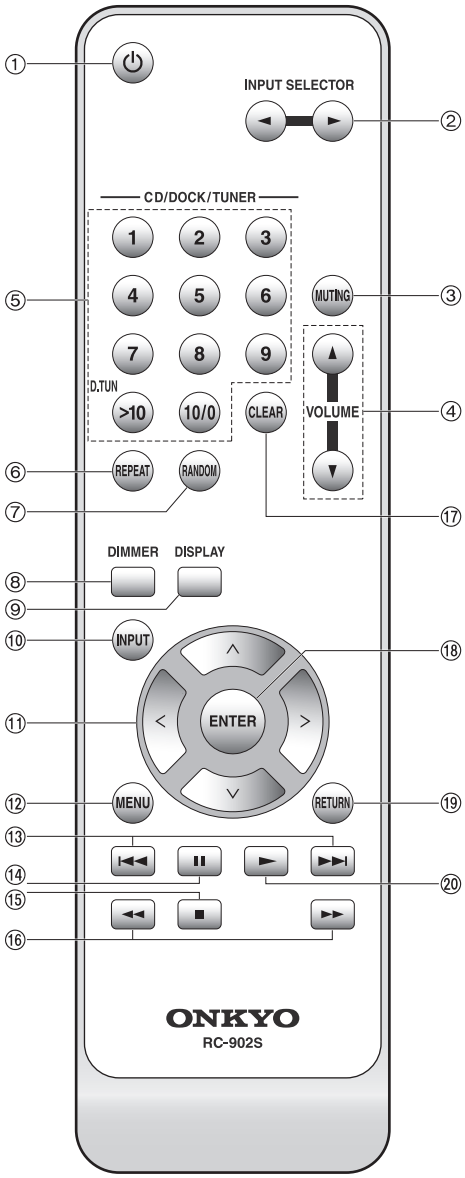
## オートスタンバイを設定する

オートスタンバイをオンに設定すると、以下の条件で本機が自動的にスタンバイに移行します。

- 現在選んでいる入力ソースの音声がない状態で、約 20 分間本機を操作しなかったとき

お買い上げ時のオートスタンバイの設定はオフになっています。
設定は以下の手順で変更できます。

1. 電源がスタンバイ状態で ① ⏻ ON/STANDBY ボタンを押し続けます。押したときに電源が入りますが、そのまま押し続けてください。
   オートスタンバイの設定が切り換わり、次のように表示されます。
   オン：ASB LED が点灯します。
   オフ：ASB LED が消灯します。




## リモコンで操作する

① ⏻ **ボタン** : 電源のオン / スタンバイを切り換えます。
- 電源をスタンバイにすると、RI 接続されているオンキヨー製機器の電源も自動的にオフになります。

② **INPUT SELECTOR ◀/▶ ボタン** : 本機の入力を切り換えます。
③ **MUTING ボタン** : 音を消します。ミューティングが働いている間は、MUTING LED が点滅します。ミューティングを解除するには、もう一度 MUTING ボタンを押します。音量を調節したり、本機をスタンバイ状態にしても解除されます。
④ **VOLUME ▲/▼ ボタン** : 音量を調節します。

### ■ RI 接続したオンキヨー製品に使用できるボタン

各ボタンの動作については、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

⑤ **数字ボタン /D.TUN ボタン**
⑥ **REPEAT ボタン**
⑦ **RANDOM ボタン**
⑧ **DIMMER ボタン**
⑨ **DISPLAY ボタン**
⑩ **INPUT ボタン**
⑪ **方向 (∧/∨/</>) ボタン**
⑫ **MENU ボタン**
⑬ **スキップ (I◀◀/▶▶I) ボタン**
⑭ **一時停止 (▮▮) ボタン**
⑮ **停止 (■) ボタン**
⑯ **サーチ (◀◀/▶▶) ボタン**
⑰ **CLEAR ボタン**
⑱ **ENTER ボタン**
⑲ **RETURN ボタン**
⑳ **再生 (▶) ボタン**

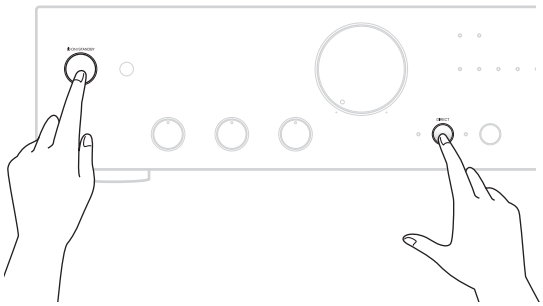
- 製品によっては対応していないものや一部操作ができないものもあります。
- 各機器を操作するには、RI 接続が必要です。詳細については、「RI 端子付きオンキヨー製品を接続する」(⇨ 8) をご覧ください。

# 困ったときは

**はじめにお読みください**
トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン / オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試しください。

## お買い上げ時の状態に戻すには

本機が正常に動作しない場合、以下の手順でお買い上げ時の状態に戻すことによって、正常な状態に戻ることがあります。
電源を入れた状態で DIRECT ボタンを押したまま
⏻ ON/STANDBY ボタンを押します。
約 5 秒後に、すべての LED が消灯してスタンバイ状態になり、お買い上げ時の状態に戻ります。



## 電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

## 本機の電源が切れる

- オートスタンバイが働いていないか確認してください。入力信号が非常に小さい場合は、オートスタンバイが働くことがあります。そのときは、オートスタンバイをオフに設定してください。(⇨ 11)
- スピーカーコードのショート、過負荷、過電流などにより保護回路が動作すると、本機はスタンバイ状態になります。原因を取り除いてから電源をオンにしてください。

## 音が出ない

- 入力ソースが正しく選択されているか確認してください。
- 音量が最小になっていないか、ミューティングが働いていないか確認してください。
- すべてのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ヘッドホンを接続しているとスピーカーから音声が出力されません。
- ヘッドホンから音が出ない場合は、接触不良が考えられますので、接続を確認してください。

## 雑音がする、音が良くない

- スピーカーコードが正しい極性で接続されているかご確認ください。
- 接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。
- テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。
- 携帯電話の通話中など、本機の近くに強い電波を発生させる機器があると、ノイズが発生する場合があります。
- オーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると、音質が劣化する恐れがあります。ケーブル類を束ねないようにしてください。
- 電源投入後 10～30分程度経過した方が音質は安定します。

## RI 機能が正しく働かない

- 各機器が正しく接続されているか確認してください。
- 接続する機器によって接続方法が異なる場合がありますので、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害 (CD レンタル料等 ) については補償対象になりませんので、大事な録音をするときにはあらかじめ正しく録音できることを確認の上、操作を行ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音やノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。
そのようなときは、電源プラグを抜いて約 5 秒以上待ってから改めて電源プラグを差し込んでください。

音を再生していないときでも、本機の上部が熱すぎて触れることができない場合は、設置場所を見直す必要があります。適切な通風を確保して、放熱を妨げないようにしてください。

# 主な仕様

定格出力 : 2 ch × 44 W (8 Ω、1 kHz、全高調波歪率 0.08 % 以下、2 ch 駆動時 )
実用最大出力 :
2 ch × 85 W (4 Ω、1 kHz、2 ch 駆動時 )(JEITA)
総合ひずみ率 : 0.08 % ( 定格出力時 )
ダンピングファクター : 95 (1 kHz、8 Ω)
入力感度 / インピーダンス : 150 mV/100 kΩ (LINE)
3.0 mV/47 kΩ (PHONO MM)
RCA 定格出力電圧 / インピーダンス :
150 mV/2.2 kΩ (LINE OUT)
PHONO 最大許容入力 : 94 mV (1 kHz 0.5 %)
周波数特性 : 10 Hz ～ 100 kHz/+1 dB、−3 dB (LINE 1)
トーンコントロール最大変化量 :
±10 dB、100 Hz (BASS)
±10 dB、10 kHz (TREBLE)
SN 比 : 92 dB (LINE、IHF-A)
78 dB (PHONO MM, IHF-A)
スピーカー適応インピーダンス : 4 Ω ～ 16 Ω
電源・電圧 : AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 : 140 W
0.3 W（待機時）
20 W（無音時）
最大外形寸法 :
435 ( 幅 ) × 129.5 ( 高さ ) × 332.5 ( 奥行 ) mm
質量 : 6.4 kg

**■ 音声入力**

アナログ : LINE IN 1 ～ 4、LINE IN 5（前面）
PHONO (MM)

**■ 音声出力**

アナログ : LINE OUT
スピーカー : SPEAKERS L/R
ヘッドホン : PHONES (φ 6.3 mm)

**■ その他**

RI : 1

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

# ご相談窓口・修理窓口のご案内

**販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は**：保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となります。長期保証期間内の製品は、店頭への修理品持込みをお願いいたします。

## ■ お電話による故障判定と、修理受付け

- 意外な操作ミスが故障と思われています。お問い合わせの前に取扱説明書をもう一度お調べください。
  また弊社ホームページサポート情報にもトラブル解決の FAQ を掲載していますので、ご参照ください。

**オンキヨーオーディオコールセンター**
**050-3161-9555**

（受付時間：10:00 ～ 18:00 土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

- 製品操作のご案内、リモコン等付属パーツのご要望、その他ご不明な点についても受付けております。
- スムーズな対応のため、お問い合わせの前に以下の情報をお調べください。
  - 製品の型番
  - 接続している他機器
  - できるだけ詳しい不具合状況
  - ご購入店名
  - ご購入年月日

## ■ メールによる修理お申込み

**http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm**
からお申込みいただけます。

## ■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記の URL に全国の修理拠点の案内がございます。
**http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm**

### 保証書について

保証書の記載事項をご確認ください。また、所定事項をご記入いただき大切に保管してください。保証期間内に万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、上記相談窓口にご相談ください。

### 保証期間終了後の修理について

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

### 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大 8 年間保有しています。保有期間経過後でも故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ご相談ください。

ONKYO

**オンキヨー株式会社**
〒541-0041　大阪市中央区北浜二丁目2番22号 北浜中央ビル

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
**オンキヨーオーディオコールセンター**
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます））

**サポートのご案内、オンラインユーザー登録**（＊）：http://www.jp.onkyo.com/support/
（＊）ユーザーの皆様により快適な製品サービスを提供するために、オンラインユーザー登録を行っています。
Eメールによる製品サポート情報や製品関連情報のお届け、ONKYO DIRECTオンラインショップからの情報
メールのご案内などのサービスをご利用いただくことができます。
（ご登録いただいたお客様情報は、オンキヨーのサービス以外の目的で使用されることはありません）

F1501-0

SN 29402019
(C) Copyright 2015 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

＊ 2 9 4 0 2 0 1 9 ＊